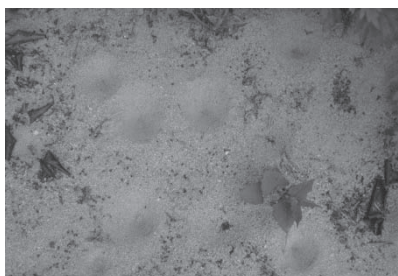


アリジゴクからウスバカゲロウへの華麗な変身

大橋正規（六甲山自然案内人の会）

はじめに



ウスバカゲロウの幼虫は河原や建物の軒下等の砂場でよく見かける すり鉢状の巣の中に獲物が来るのを待ち伏せしている肉食（体液）昆虫で、よく見るとこれほど謎の多い生き物はいない。



河原で数十匹を捕獲して 3 年間自宅の飼育ケースで成虫になるまでの変態を観察しました。（不完全変態一蛹と成虫が同じ形、卵も見つからない）

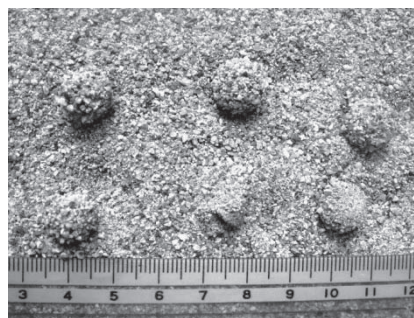
幼虫から繭・蛹へ

自然界では 1 齢幼虫から成虫に成るまで 2～3 年掛かると言われているが、捕獲した個体に毎日、蟻を朝晩 1 匹ずつ与えたとんと 1 週間で繭（砂玉）を造った。（それまでの生長期間が不明だが）

繭を切り裂いて中を見ると成虫そっくりの蛹（頭・眼・口・触覚・胴・羽・脚・肛門全部を備えている）が居た。図鑑等では幼虫の間は肛門が無く糞は成虫に成って初めて溜め糞をすると記されているが、蛹の腹部に丸い真珠の様なものが付いておりこれが溜め糞ではないかと考察した。

幼虫は口が無く大顎の鋭い先端を蟻などの小昆虫に突き刺して体液のみを吸い取るため、肉や草の様な残さいが無く糞も綺麗なものと思われる。

因みに充分餌を与えた個体の大顎の先端を切り取ると綺麗な水玉が噴出した。これを消化して残ったものが糞として溜めていたものと考えれば納得が出来る。上の写真の丸いものの成分と一致すれば溜め糞であることが証明できるのだが・・・。



蛹から羽化脱出へ

繭を砂上に集めて観察すると 3～4 週間で羽化脱出が始まった。繭の先端がモゾモゾと動きガサガサと小さな音がして成虫が脱出するが、1 秒もかからず出てしまうため、写真撮影は困難でましてや動画を撮るのは難しい。

30匹位の羽化脱出を観察した中で奇跡的に1個体だけ35秒位かけて脱出したため動画撮影に成功した。

この動画は誰も撮っていない貴重なものである。

私の公開Youtube：15MFLiKcgy4をご覧ください。

繭から脱出すると近くの枝に泊り15分位で翅が伸び、1時間くらいで翅が乾燥して暗闇の中に飛び立ってゆく。但し家の中なのでカーテンに止まっている。

羽化脱出の時間帯は決まったように19時から21時までの間でした。



産卵の謎 解明に挑戦



脱出飛び立った成虫をしばらく室内で放置して交尾産卵を期待したが、成功しなかった。伊丹昆虫館等ウスバカゲロウの専門家に聞いてみたが、卵や産卵シーンは誰も見たことが無く解明されていないとのこと。ならば自分が解明してみようと意欲がわいてきた。詳しい色々な人に聞くと、トンボのように先ず成虫に成って鋭い歯で蛾などの小昆虫を食べないと生殖機能が出来ないのでは室内では無理であるとのこと。

ならば、河原などの蟻地獄の多い場所で初夏の夜間成虫が飛来するのを待ち伏せして根気よく観察する以外に方法が無い。（今夏試してみようと思う）

その際、成虫を捕獲して体内を調べるのも一つの方法である。

また、新年子が多く発生する時季、小さな蟻地獄の砂を持ち帰ってルーペで見たが孵化した卵殻が無い・・・これもまた不思議な事。孵化した幼虫が卵殻を食べると言う説もあるが、口も歯も無い幼虫が食べることが出来るのか・・・否定せざるを得ない。

発想の転換—卵胎生？

今まで誰も卵を見たことがないということは、卵を産むのではなく胎内で孵化させた幼虫を直接砂の上に産むのではないだろうか？

いずれにしても大変興味深いので今後も解明に挑戦したい・・・誰か同志を求む。

結果と考察

- ① 溜め糞は成虫ではなく蛹の段階で排泄するのではないか。
- ② 産卵なのか卵胎生なのか。